

ふじみサラダボール子育て情報

「幼児と精神性」

令和5年2月1日号



板橋富士見幼稚園



母子分離の寂しさと自立への扉

乳児期から幼児期を経て、「子ども」と呼ばれる時期を迎えます。

乳児期は、養育者である母親に対してしっかり依存し、安心・安定した心の中で成長していきます。そして一歳半歳を迎える頃から、母親に依存しながらも、自立しようとする心が騒ぎ出し、親と子の距離が次第に離れはじめます。このときに、振り返りという行動が現れます。お散歩に出て一緒に歩きながら、親の顔を何度も見上げたり、公園で遊んでいる時に、しばしば親を振り返り確認するといった行動が見られます。このような時期を迎えると、依存と自立が錯綜し、子どもの精神性は不安と安心に包まれながら、母子分離が始まります。3歳までにはほとんどは母子分離していきますが、時には長引いて小学生まで引きずることがあります。

人間の摂理で、依存から自立へは、誰もが通過する成長点です。このときに親が無理矢理離れるよう疎遠にしたり、「一人でできるでしょ」「やっごらん」等自立を促す言葉を言い続けたり、無理矢理一人にしたりすると、不安感が増大し、夜何度も目を覚ましたり、ちょっと離れると大泣きしたり、後追いするなどの行動が強く表れたりします。中には、腹痛や頭痛などの症状がでるケースもあります。

3歳までの時期は、しっかりとスキンシップを大事にしながら、家族愛の中で安心感のある生活を心がけてあげてください。子どもの求めに応じてあげていくと、母子分離は加速します。楽しい今の生活を味わってください。



【写真：寒さが厳しい朝、幼稚園に分厚い氷が張って色々な氷遊びを楽しみました】